

コンテナ苗の活用等によるコストの

縮減に向けた取組

地域課題の解決に向けた取組

石狩森林管理署

石狩流域における民有林では、高性能林業機械の導入や効率的路網整備技術は徐々に進んでいるものの、造林におけるコスト抑制は進んでいない現状にあります。

このため、当署では民有林への技術普及を念頭に、伐採から造林に至る一貫作業システムの導入による効率化に取り組みました。

特にコンテナ苗のメリットである「植栽時期を選ばない」「こまごま着目し、植栽適期とは言えない夏季のコンテナ苗植栽の実証を行い、事業の効率化による造林コストの抑制を図り、トータルコストの縮減を目指しました。

具体的には、平成24年からコンテナ苗の植栽、平成25年から一貫作業システムの取組、平成26年

から誘導伐箇所での末木枝条の販売を継続的に実施し、平成27年は一貫作業システム・夏植栽及び末木枝条の販売の取組を実施しました。

平成28年は以下の4つに取り組みました。

コンテナ苗のメリットの検証



クリーンラーチの大苗

夏期植栽の期間を7・8・9月に拡大してカラマツ・アカエゾマツを植栽し、11月現在では、ほぼ100%の活着率となっています。

また、下刈軽減効果を

調査するため、優良品種（クリーンラーチ）の大苗を植栽しました。

オーガによる植付の機械化・効率化の検証



オーガによる植栽

オーガ（穴堀機）による植付功程調査を平坦地・傾斜地で実施しました。

末木枝条のチップマルチング効果の調査

平成27年に実施した末木枝条のチップマルチングの効果について調査し、

平成28年8月現在（赤線内は施行地・緑線内は非施行地）では、マルチングにより植生の回復が抑制されており、継続して経過を調査していきます。



チップマルチング効果調査箇所

技術普及のための研修・検討会を実施

関係市町村、林業関係団体を対象にした石狩振興局森林室主催の研修・検討会で今までの取組や成果について説明をさせ

ていただきました。



取組や成果についての説明

今後は、調査を継続し、データを蓄積するとともに平成25年から取り組んできた功程調査や成長調査等のデータを分析し、現場での作業に反映させて、コンテナ苗の普及やコスト縮減につながるようにと考えています。

また、このような技術情報を発信したり、関連機関と連携し、課題を解決出来るようにしたいと考えています。